

事前協議計画の概要書

- 1 診療所の名称：医療法人 康曜会 プラーナクリニック
所在地：埼玉県深谷市柏合 1 4 4-2
所在二次保健医療圏：北部保健医療圏
- 2 開設者の名称：医療法人康曜会 理事長 青木康弘
- 3 診療所の現状：開設は 2009 年。現在、常勤医 5 名、非常勤医 3 名にて、内科外来、在宅医療、入院（睡眠時無呼吸症の検査入院）を行っている。全職員数は 50 名強。

病床数（有床診療所基本料）

病床機能区分	病床種別	許可病床数	稼働病床数	非稼働病床数
回復期機能	一般病床	4	4	0
計	-	4	4	0

病床利用率(平均)

一般病床	療養病床	地域包括ケア 病床	回復期リハビリ テーション病床
1.64	-	-	-

* 睡眠時無呼吸症の検査入院。年間 300 名程度。

4 増床の目的、必要性

埼玉県を含め日本全体をみても、人口は高齢化と減少傾向にあり、今後の医療のあり方を検討する時期が来ているとされています。厚生労働省は「医療提供体制の確保に関する基本方針」として、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患の 5 疾病、救急医療、災害時の医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療の 5 事業、そして在宅医療について医療連携体制の構築を求めることを示し、これらの基本方針を踏まえ、平成 30 年に埼玉県は第 7 次埼玉県地域保健医療計画を策定しました。

当院は平成 21 年に開設した深谷市の内科系診療所で、呼吸器疾患を中心に診療を行っています。病床は 4 床を有し、睡眠時無呼吸症の検査を行っております。現在は院長を含め常勤医師は 5 名、非常勤医師は 3 名の体制となっています。当初より在宅医療に関わってきましたが、昨今の地域包括ケアシステムの構築、アドバンスケアプランニング（ACP、人生会議）などの議論が高まり、住み慣れた街で最後まで生きるための在宅医療や看取りに関して力を注いでいく必要が出てきました。また、在宅人工呼吸療法患者を在宅医療で支えている実績から深谷寄居医師会の地域包括ケア担当理事を拝命しております。このような背景から、有床診療所の病床を増設し、小回りの

きく地域包括ケアのバックベッドや安心感のある在宅医療の提供に用いたいと考えるようになりました。

また、当院は実臨床では埼玉県立循環器・呼吸器病センターと密な連携をとっており、以前より以下のようなお話をいただいております。「埼玉県北の肺がん診療の中心は埼玉県立循環器・呼吸器病センターで行い、手術、放射線治療、化学療法を担っているが、肺がん終末期の在宅医療や病床確保に苦慮している。」「その結果、年間200名以上の肺がん終末期を看取っている状態であり、埼玉県北の身近な地域で肺がん終末期の在宅医療や看取り医療を協力するための有床診療所などの体制構築は非常に重要な案件であろう。」とのことでした。

以上より、在宅人工呼吸療法患者や肺がん患者に対する在宅医療など地域包括ケアのための有床診療所の活用は国や県の方針と地域の実情に沿った取り組みであり、当院として早急に取り組む必要があると考えました。この基本方針を基に緩和ケアや看取りを行う在宅医療を行うための病床の設置とそれに伴う病棟建設に関する計画を実現させ、埼玉県北地域の在宅医療や看取り医療のための病床を運営させていただき、在宅医療のあり方とその実際の在宅医療推進に貢献したいと考えています。

5 増床の計画の具体的内容

(1)整備する病床の機能・数 増床計画病床 10 床 合計 14床

医療機能*	病床機能区分	病床種別	入院基本料 特定入院料	病床数
地域包括ケアシステムの構築	回復期機能	一般病床	有床診療所入院基本料1	10床
			在宅療養支援診療所	
計	-	-	-	10床

病床数の根拠

病床数に関しては、地域の実情に合わせて検討する必要があると考え、また当院の専門性を考慮し、在宅人工呼吸療法患者、在宅酸素療法患者、肺がん患者、その他の患者として算出しました。

<在宅人工呼吸療法患者>

現在、外来診療や往診により、10名程度の在宅人工呼吸療法患者に対応していますが、状態が悪化すると、後方病院への入院や老人保健施設への入所となるなど、在宅医療では対応できない状態となっています。

今後、こうした方々に新たな病床で軽度の肺炎やレスパイト入院などの診療を行うことで、住み慣れた地域で療養生活が送れるようになると考えています。

それにより、自院で診療を継続する患者が増加するため、20名程度の外来患者を見込みます。外来患者は平均して年に1回2か月程度の入院をするものと積算します。

以上より、 $20 \text{名} \times 60 \text{日} \times 1.0 = \text{年間延入院日数} 1,200 \text{日}$

<在宅酸素療法患者>

現在20名程度の在宅酸素療法患者を対応しており、今後は30名を予定しています。呼吸ケア白書によると、年間平均在院日数は60日弱で、入院確率は33%程度となっています。

以上より、 $30 \text{名} \times 60 \text{日} \times 0.33 = \text{年間延入院日数} 600 \text{日}$

<終末期肺がん患者>

終末期肺がん患者の予後は6ヶ月程度、転院や看取りに用いる入院期間は2ヶ月程度と見込み、年間30名の終末期肺がん患者に対応する予定とします。

以上より、 $30 \text{名} \times 60 \text{日} = \text{年間延入院日数} 1,800 \text{日}$

<その他の在宅患者>

厚生労働省による患者調査では、一般の75歳以上での入院確率は10%で、平均在院日数は60日となっています。当院では20名程度のその他の在宅患者の受け入れを予定しています。

以上より、 $20 \text{名} \times 60 \text{日} \times 0.1 = \text{年間延入院日数} 120 \text{日}$

これらの年間延入院日数の合計は3,720日となります。

必要病床数は $3,720 \text{日} \div 365 \text{日} = 10.19$ 10床と想定されました。

以上のことから、既存4床に加えて新規10床の増設をよろしくお願いいたします。

(2) 計画敷地

	面積	取得予定時期	取得状況
取得済	999 m ²		所有 (借地)
取得予定	2,541.45 m ²		所有 (借地)
計	3,540.45 m ²	土地は地主所有	

(3) 計画建物

工事種別	新築・(増築)・改修・その他()
概要	鉄骨造2階建(外来部分を含む)

(4) 医療従事者

職種	現在の人員(人)			確保予定の人員(人)		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師	5	3	0.6	7	3	0.6
看護師	10	3	1.3	10	4	2.0
その他	33	3	1.5	52	3	1.3
計	48	9	3.4	69	10	3.9

確保状況・確保策、確保スケジュール

看護師は5名程度、看護助手は10名程度の募集が必要です。

特に看護師に関しては、現在14名の常勤看護師がおります。また、院長は深谷や熊谷地区の看護学校の講師を行っており、看護学生に対する教育、准看護師に対する看護師へのサポート体制、看護師に対する認定看護師へのサポート体制を敷いております。関与した看護学校からの入職者は6名以上になります。このため、今後の病棟運営にあたってその確保は可能と考えています。

また、ハローワーク、広告、ホームページなどで募集しており、現在でも年間数名程度の増員が可能な状態です。

2020年後半期より、病棟運営に向けて募集をしていく予定です。

(5) スケジュール

No.	項目	計画年月	備考
1	変更許可(医療法)	医療審議会終了後	
2	建設(着工～竣工)	令和2年6月～令和3年3月 (10ヶ月)	外来部分を含む 新棟の工事
3	使用許可(医療法)	令和3年7月予定	
4	開設(増床)	令和3年7月予定	